

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・単元で小テストを行い、語彙力や新出文法の定着を図った。普段の授業の中での言語活動や書く活動をパートごとに取り入れ、表現力向上に取り組んだ結果、全国平均よりも、1年生は7.8ポイント、2年生は12.4ポイント、3年生は3.7ポイント上回った。

(2) 課題

- ・1年生は発表を聞いて情報の概要を捉える力と、自分で考えた内容を正しく英語で書く力に課題が見られる。基礎・基本となる語彙を確実に定着させ、それを状況に応じて引き出せる応用力を身に付ける必要がある。また読むことに関しては、長文の要点をつかむことができるよう指導していく必要がある。既習事項を活用して、言語活動や様々な教材に触れさせ、生徒の4技能を向上させていく。
- ・2年生は、基礎の学力を維持しながら、さらに活用能力を身に付ける必要がある。聞くことに関しては、聞き取るポイントや情報を確認した上で、聞き取る力をつけていく。読むことに関しては、教科書本文のプリントや音読練習を中心に様々な英文を読み取る力がつくよう、指導していく。書くことに関しては、既習事項で得た知識を場面や状況等に応じて、自分で活用した英作文が書けるよう指導していく。
- ・3年生は、場面に応じて書く英作文に課題が見受けられる。理由を尋ねたり、相手に伝わるように英文を書いたりすることができるように、少人数によるきめ細かい指導を継続して行っていく。教科書やワークシート、プリント等で様々な英作文に生徒をふれさせて、英作文力の向上を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全体的に区の目標値と全国正答率を上回っているが、英文を正しく「書く」力に課題が見られる。		
第2学年	全体として、目標値から12.2ポイント上回っている。領域別に見ると、書くことの正答率が低い。すべての観点で目標値は上回っている。	全体として、目標値から10.3ポイント上回っている。領域別に見ると、読むことが、聞くこと、書くことに比べて正答率が低い。すべての観点で目標値を上回っている。	
第3学年	全体として、目標値から3.9ポイント上回っているが、活用において課題がある。領域別に見ると、書くことの正答率が低い。すべての観点で目標値は上回っている。	全体として、目標値から7.3ポイント上回っている。領域別に見ると、書くことが、読むこと、聞くことに比べて正答率が低い。すべての観点で目標値を上回っている。	全体として、目標値から10.4ポイント上回っている。領域別に見ると、聞くこと、書くことが、読むことに比べて正答率が低い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも12.2ポイント上回っている。身近な語句の正答率は90ポイントを超えているが、活字体で書かれた大文字を識別する問題の正答	目標値よりも10.7ポイント上回っている。日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測する問題	全体的に区の目標値と全国正答率を上回っているが、一方で紹介文の書き方に課題が見られる。また英作文による問題で一部、無解答が見

率が低い。	(道案内) も正答率が目標値よりも 0.6 ポイント低い。	られる。
-------	-------------------------------	------

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも 9 ポイント上回っている。語形・語法の知識の理解の問題の正答率が低い。この大問のみ目標値を 0.8 ポイント下回っている。特に一般動詞の過去の疑問文についての正答率が低い。	目標値よりも 15.7 ポイント上回っている。すべての問題で目標値を上回っている。しかし、対話文を聞いて、概要を捉え、適切に応答する問題の正答率が他と比べて低い。	どの問題においても、無回答率は区の平均以下であり、少ない傾向にある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも 4.2 ポイント上回っている。「書くこと」の問題の正答率が低い。	目標値よりも 3.6 ポイント上回っている。「さまざまな英文の読み取り」の正答率が低い。	記述問題において、無回答率が区の平均以下で、少ない傾向がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に単語試験を行い、基礎的な語彙・文法の定着を図る。日常生活に根ざした言語の使用状況を設定し、言語活動を充実させる。	既習事項を使用して自分が伝えたいことを表現できるように指導していく。与えられたテーマに応じて、まとまりのある正しい文を書く活動を各単元に取り入れる。	生徒の興味・関心を高め、日常生活に根ざした英語を話す場面を設定し、生徒が言語活動を楽しめるよう工夫する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを、長期の休み後にはスプリングコンテストを実施し、単語・語形・語法の定着を図る。既習の単語や熟語を適切に使えるように使用教材の内容を工夫していく。	既習事項を使用して、自分の力で長文の内容を理解できるように指導していく。またデジタル教科書を活用して、音読練習を充実させていく。教科書本文に関係する題材で自分の考えを表現する活動を工夫して取り入れる。生徒が自分の考えや思ったことを英語で書けるように指導していく。	協同による学びあいを通して、普段の授業内で、失敗を恐れずに学ぶ姿勢や、英語での積極的なコミュニケーションができる雰囲気をつくる。内容を理解する際には、受け身ではなく、自分で考えながら理解しようとする気持ちを育てる。また、パフォーマンステストでは必ず自己評価で自分の学びを振り返る機会をつくる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングにおける対話文の応答に課題が見受けられるので、スプリングコンテストなどの熟語テストを実施し、熟語や語彙力の定着を図る。	「場面に応じて書く英作文」に課題が見られる。テーマに応じた英作文や課題を通して、自分の考えや意見を表現させる機会を設けていく。その際、新出事項だけでなく、既習事項の理解も十全に確認する。	新出事項の解説では、生徒が興味・関心をもてるような教材や課題を用意する。また ICT を使用した音読指導などを継続的に行い、個に対応した指導を行っていく。